

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和7年度（公財）日本ハンドボール協会「競技規則」によって行う。

2 競技会場

（1）競技会場・コートのはさは、少年種別・成年種別ともに、以下のとおりとする。

○佐世保市体育文化館 メインアリーナ（39m×20m）

※会場では、「松やに」の使用を禁止し、「両面テープ」のみ使用を認める。

※当日の外気温や湿度などの気象状況、館内の室温および空調環境を総合的に判断して、「給水タイム」を設定する場合がある。

（2）別紙「会場使用上の注意」等を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、チーム役員4名以内・選手12名以内の合計16名以内とする。

※監督以外のベンチ入りする役員の氏名は、トス時に関係役員に申告する。

4 競技方法

競技方法は、全種別ともにトーナメント方式による代表決定戦とする。

すべての種別において、決勝戦は実施しない。

なお、成年女子・少年男子のみ、第3代表決定戦を行う。

すべての試合において、正規の競技時間が終了後、同点の場合は、下記により勝敗を決定する。

○「第1延長」→「第2延長」→7mTC（5名）により、勝敗を決定する。

○延長戦は、「後半終了後→5分休憩→即トス→前半5分→休憩1分→後半5分」とする。

5 参加資格

参加資格は、令和7年度 国民スポーツ大会 第45回 九州ブロック大会「ハンドボール競技要項」に記載されている「5参加資格」（1）～（4）のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。（※「17」参照）

6 競技日程・時間

（1）競技日程は、プログラムのとおりとする。

（2）**競技時間は、「前半30分ー休憩15分ー後半30分」とする。**

なお、同点の場合は、延長戦を正規で行う。（第1延長戦～第2延長戦～7mTC<5名>）

（3）競技時間は、加算式の電光表示板を使用し、コートの対面に表示する。

（4）競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザーまたはホーン、笛で行う。

(5) 退場者の取り扱い、以下のとおりとする。

①退場者の番号と入場時間は、「記録席上に用紙」で表示する。

②入場の判断は、チームの責任である。

7 大会使用球（（公財）日本ハンドボール協会検定球を使用する。）

(1) 成年男子 両日 3号球（モルテン社 H3A5000-B ）

(2) 成年女子 両日 2号球（モルテン社 H2A5000-B ）

(3) 少年男子 両日 3号球（モルテン社 H3A4000-GB ）

(4) 少年女子 両日 2号球（モルテン社 H2A4000-GB）

8 トス・ユニホーム

(1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。

その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、17(1)

(2) ユニホームの確認について、第1試合は、記録席前で試合開始30分前に行う。

以降の試合は、前試合のハーフタイムで行う。しかし、第3代表決定戦は、試合開始30分前に行う。

確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。

希望調整がつかない場合は、組合せ表によるチーム番号の大きいチームが変更する。

(3) ユニホームについては、下記のとおりとする。

条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。

その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。

① 前面に県名を表記する。大きさ・縦書き・横書きは問わないが、確実に目視できるものとする。

表記の仕方は、漢字だけでなく、アルファベット・ひらがな・カタカナ等を用いることは許される。

※色と県名表記などを「事前に確認するので、所定の様式にて画像を送信する」こと。

② 単独チーム名を入れる場合は、袖のみ表記可とする。

③ 番号の大きさ（高さ）は、胸10cm以上・背20cm以上とし、ナンバリングは1～12とする。

④ 基調色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。

⑤ 広告を表示してはならない。

⑥ メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。

⑦ 背に氏名・〇〇選抜等の文字表記をする場合は、大きさ（高さ）10cm以内とする。

⑧ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして、競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。

その場合は、同番号でなく、13番以降の異なる番号でも問題ない。

交代地域にいる別のプレーヤーのユニホームと交換することも許される。

⑨ チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。

ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。

(4) ゴールキーパー

①チームで同色とする。

②コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。

登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。

(5) 服装、プレーヤーの装具

- ①プレーヤーはユニホームの下に、パワーパンツ、コンプレッション ショーツ、インナー ハーフパンツ、レギンス、長そでなどのウェアを使用できる。ユニホームの外に見える場合は、以下の規定が適用される。
- ②アンダーシャツは、ユニホーム（シャツ）の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
- ③サイクリングパンツなどユニホーム（短パン）の下に履くものは、ユニホーム（短パン）の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。ただし、黒色は例外として、ユニホーム（短パン）の色とは関係なく使用できる。
※ 例）チームのユニホーム（短パン）が白色の場合、白のサイクリングパンツをはいているプレーヤーと黒色のサイクリングパンツをはいているプレーヤーが混在していても差し支えない。
- ④アンダーシャツの色は、チームで統一された色でなければならない。
- ⑤すべてのプレーヤーは、靴下を履き、その色はチームで統一された色でなければならない。
- ⑥膝下の装具（例：ふくらはぎへのコンプレッションスリーブ、足首の装具など）は、靴下と同色であること。
（国内では、足首の装具については、靴下と同色でなくてもよい）
- ⑦肘や膝の装具（1 か所のみを保護する装具）の色は問わない。
- ⑧眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。ただし、金属製のフレーム等については使用できない。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 所定の申込を完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することできる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名、チーム役員3名以内、選手12名以内の合計16名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、少年種別については、8月14日（木）までに、成年種別は、8月18日（月）までに変更申請が完了したことで決定する。変更申請が完了した内容については、一覧を会場にて掲示する。
- (4) 登録証の取り扱いについては次のとおりとする。
 - ①トスの際には、テクニカルオフィシャル（以下：TO）に登録証を提出する。提出不可、または不備（写真添付なし等）があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
 - ②TOが試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。
試合中は、TOが登録証を管理し、試合終了後に両チーム代表者に返却される。
 - ③失格のチーム役員・選手、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、試合後に返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、チーム責任者は「A」を着用する。また、試合終了後に返却すること。

10 公式記録用紙

- (1) 記録用紙に、ランニングスコアは記載しない。
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」などを責任持って確認し、サインをする。
- (3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ※交代地域：「3.5mラインを始点とし、12mの位置を終点とする。」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い容器を使用し、コップの使用を禁止する。

- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならない、躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TOが直接受け取ってよい。

13 休憩時間(ハーフタイム)

- (1) 休憩時間のコート使用は、次試合のチームが練習のため使用する。
- (2) ハーフタイムは**15分間(減算式)**、次試合のチームのコート使用は**14分間**とする。**タイマーは14分間でセットし、14分を経過した時点で、ブザーにより通知する。残りの1分間で後半に向けたコート整備の時間とし、準備が整い次第、後半の競技再開とする。**

14 テクニカルオフィシャル(TO)、裁定委員会

- (1) **本大会は、各試合にTOを配置する。配置は3名を原則**とし、マッチオフィシャル(MO)、タイムキーパーを担当するテクニカルデレゲート(TD)、及びスコアキーパーを担当するTDで対応する。
- (2) テクニカルオフィシャル(MO・TD)は、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (3) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長・副審判長等とする。なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 負傷者カード(成年種別のみ適用)

- (1) コート上で治療を受けたプレーヤーは、速やかにコートから出なければならない。
その後、そのプレーヤーは自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。これを表示するために、負傷者カードを記録席に表示する。
3回の攻撃が終了し、コートへ戻る事が可能になったら、このカードを取り除く。
- (2) 延長戦を含めて前半・後半が終了したら、3回の攻撃回数が終了していなくても、次の開始時点からコートに入場できる。

16 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了後に両チームの挨拶が終了するまで、フロアへの入場を禁止する。競技中に次試合の役員・選手が、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。所定の場所で、待機すること。

17 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。トスの際には、必ずTOに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
- (3) TOが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

※会場には、医療スタッフが常駐しているので、トレーナーを帯同させていないチームは、積極的に相談・活用して良い。

18 表彰

競技2日目は、試合終了後に、表彰（国スポ本大会への出場権授与）を行う。

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 観客席

今大会は、スポーツ競技活動を通じた社会活動の一場面である。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを選手および応援者たちに徹底させる。